



2024年  
4月5日  
No.A23-12

中東調査会は個人及び法人会員の賛助会費により運営されている非営利の公益財団法人です

## 中東調査会月間活動誌 (2024年3月)

### 1. 中東調査会主催の行事

#### (1) 中東情勢シンポジウム

・3月11日(月)、14:00~15:30、於：ホテル・グランドアーク半蔵門3階「華の間」、中東情勢シンポジウム(上村 司 日本政府代表/中東和平担当特使、森 まり子 跡見学園女子大学文学部教授/中東調査会客員研究員、鈴木 啓之 東京大学大学院総合文化研究科特任准教授、渡部 恒雄 笹川平和財団上席研究員、高尾 賢一郎 中東調査会研究主幹、青木 健太 中東調査会研究主幹「中東はどこへ向かうのかーガザ危機がもたらすものは何か」)(共催・読売新聞社)



#### <要旨>

齋木理事長の開会挨拶及び本シンポジウムの趣旨説明の後、上村日本国政府代表・中東和平担当特使が、「世界情勢の変化と中東の行く末——ガザ危機から見えるもの」と題し、基調講演を行った。上村大使は、パレスチナ問題をめぐる世界情勢を振り返りつつ、解決への糸口には中東諸国が自立し、自ら問題解決できるようにならなければならないと指摘した。

「ガザ危機は世界に何を問いかけているのか?」と題したパネルディスカッションでは、モデレーターを読売新聞社調査研究本部の笹

沢主任研究員が務め、森跡見学園女子大学教授・中東調査会客員研究員、鈴木東京大学大学院特任准教授、渡部笹川平和財団上席研究員、中東調査会の高尾研究主幹、青木研究主幹がパネリストとして登壇した。同パネルでは、イスラエル、パレスチナ、湾岸諸国、イラン、米国の各視点からガザ情勢について活発に議論がなされた。質疑応答では、イスラエル・パレスチナ双方の視点から見た二国家解決の実現可能性、パレスチナ自治政府の目下の内部事情等、参加者から多数の質問が寄せられた。

最後に、山内昌之東京大学名誉教授・中東調査会常任理事より総括がなされ、シンポジウムは閉幕した。

## (2) トップ・ミーティング

- ・3月13日(水)、後藤 謙次 ジャーナリスト  
「混迷する日本政治の行方」(於：オークラ東京)



### <要旨>

講師より、過去の内閣の政権運営の手法や現在の岸田政権が抱える課題について、具体的な背景に基づく詳細な説明がなされた。また、衆院解散の可能性、野党側の動向に関する考察が行われた。

## 2. 中東調査会の活動

### (1) 中東トピックスの発行【会員限定】

- ・2024年3月号(2024年4月5日付)
- 1. アフガニスタン:「イスラーム国ホラーサーン州」(ISKP)をめぐる動き
- 2. エジプト:IMF・EU・世銀からの資金援助
- 3. イスラエル:軍と治安機関が、10.7事件の検証を開始——失った国民の信頼
- 4. UAE:キプロス経由でのガザ地区への食糧支援の開始
- 5. パレスチナ:新内閣の発足
- 6. トルコ:エルドアン大統領の米国公式訪問決定を受け、両国代表団が会合を実施
- 7. イラン:新年のスローガンを「国民参加による生産の飛躍」と発表

※内容はホームページをご参照ください。

([https://www.meij.or.jp/trend\\_analysis/topics/](https://www.meij.or.jp/trend_analysis/topics/))

### (2) 中東かわら版の発行

- No.179「イラン:国会議員選挙の実施とその意味」(研究主幹 青木健太、3月7日)
  - No.180「イスラエル・パレスチナ:再燃したガザ戦争#18——増加する飢餓の兆候」(協力研究員 中島勇、3月11日)
  - No.181「エジプト:IMFと融資拡大で事務レベル合意」(主任研究員 高橋雅英、3月13日)
  - No.182「UAE:ドイツとのLNG長期契約」(主任研究員 高橋雅英、3月19日)
  - No.183「イスラエル・パレスチナ:再燃したガザ戦争#19——孤立深まるイスラエル」(協力研究員 中島勇、3月26日)
  - No.184「イラク:水需給の一時的緩和と今後の課題」(協力研究員 高岡豊、3月26日)
- (<https://www.meij.or.jp/kawara/>)

### (3) 中東分析レポートの発行【会員限定】

- ・No.12「ガザ危機が中東・湾岸地域に及ぼす影響——「抵抗の枢軸」、エネルギー情勢、難民

問題に着目して——」(3月5日)

- No.13「UAEのクリーンエネルギー政策と天然ガス産業の動向」(3月26日)
- No.14「ターリバーン復権を経たアフガニスタン・パキスタン関係——パキスタン軍部の想定され得る思惑——」(3月27日)

※内容はホームページをご参照ください

([https://www.meij.or.jp/trend\\_analysis/report/](https://www.meij.or.jp/trend_analysis/report/))

(4) イスラーム過激派モニターの発行【会員限定】

- No.17「月刊イスラーム過激派の動向:2024年1月」(3月11日)
- No.18「AQAP指導者ハーリド・ウマル・バータルフィーの死亡」(3月22日)
- No.19「月刊イスラーム過激派の動向:2024年2月」(3月28日)

※内容はホームページをご参照ください

([https://www.meij.or.jp/trend\\_analysis/monitor/](https://www.meij.or.jp/trend_analysis/monitor/))

(5) その他の活動

- 3月1日(金)、2023年度外交・安全保障事業「中東ユーラシアにおける日本外交の役割——国家間競争の時代における大国主導の連結性戦略と地域秩序再編の実態解明」事業のコメンタリーNo.4を当会HPに掲載した。(表題:「イラン外交の多角化と連結性戦略——チャーバハール港開発と国際南北輸送回廊(INSTC)に着目して」(研究主幹 青木健太))。
- 3月14日(木)、青木研究主幹は独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構(JOGMEC)でブリーフィングを行った(演題:「イラン「抵抗の枢軸」の様態とイラン・イスラエル関係の展望」、オンライン)。
- 3月15日(金)、2023年度外交・安全保障事業「中東ユーラシアにおける日本外交の役割——国家間競争の時代における大国主導の

連結性戦略と地域秩序再編の実態解明」事業の第4回研究会を実施した。

- 3月22日(金)、アゼルバイジャンの国際関係分析センターのシャフィエフ所長ら一行が来訪し、齋木理事長らと意見交換した。



### 3. その他 (要人往来)

- 1日、柘植芳文外務副大臣は、チュニジアのムニール・ベン・レジバ外務大臣付国務長官と意見交換した。
- 28日、上川外相は、国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)のラザリーニ事務局長と会談した。

### 4. 4月の予定

- 4月16日(火)、8:30~10:00、於:オークラ東京プレステージタワー7階「メイプル」、トップ・ミーティング(杉山 大志 キヤノングローバル戦略研究所研究主幹「パリ気候協定の終焉とエネルギードミナンスの時代」) \* 法人会員限定
- 4月23日(火)、16:00~17:30、中東情勢オンライン講演会(倉光 秀彰 駐モロッコ特命全権大使「日・モロッコ関係、モロッコの内外政、モロッコ経済の将来的な可能性」)

※やむを得ない事情により、日時や会場が変更になることもございますのでご了承ください。また、この他にもイベントを開催することもございます。詳細等と併せまして、配信

メールやHPをご参照ください。

(<https://www.meij.or.jp/event/>)

\*会員の皆様は、どなたでも会員限定ページをご覧になれます。

\*ログインに必要なIDとパスワードは、御社の当会担当窓口にお問い合わせください。